

三水市图书馆

き わ い 菊

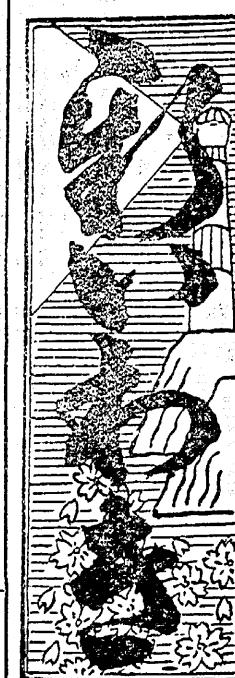
和三年十二月四日

(昭和三年五月一旬)
第三種郵便物便物認可

早くも充さる
博覧會氣分
四月一日開場の滿蒙と國防博覽會も着々準備が進められ出品物も二十七日までには全部出揃ふ事になり開館を前に見事に完成する。田人村荷路夫村春山から約八百名の團体申込があり彌谷上にも那人氣を湧かせつてゐる。

で追へられた大佐は壇上先づ向ひ、句くも國事を談するものは私心あつては國事を談せぬことであると前提して序を非常時より説き起し敢て事新しく云ふ迄もなきが之れに對する認識が一様でない其れは議論の出發點が遙かから一致せぬと自己共に述して聽衆に國際間の事情に

憂國の熱狂に 引付られた聴衆



て來たが凶作の最被害地田ヶ谷は、結合村では毎年一回凶作が續き、村民の苦況は他の指定凶作村に比して甚だしく、根本的に対策を樹立しない限り凶作から解放される時がないと云ふので、全村一致して自力甦生を企て、申し合はせ農事の根本的改良と永久的対策を樹立する事になり去十二日來各部落毎に之を防ぐ座談會を開き、

凶作農村 充ざる甦よみがへ 各村ごふく 雄お

誕生記念の貯金奨励

生の空氣

石城地主 漸く天下に據置の二種に分けて預

た様な小商人の買値も
拾遺歌中題 現今の湯
(飯坂) 建碑

農倉の二俵十一圓二十
を前回に比すれば七錢
で米價は當分のところ
たどるものと見られて
氣不振の原因は米穀法
ゆきを注視される梗塞
はれてゐるが產地と中
との逆比例から漸次正
ひ來つたものとも唱ひ
れにしても既往の如き
戻ることは茲も一と

入金額

して研究 磐中昨年の卒業生
たに達ひないが、
ぬから、當湯の地
知るに由ない。用
風土記編纂の初認
皇の和御六年五月
後に成る現存の、
に播磨、常陸、山
記と、是の旨に因
こと)を上
たと思ふに足る紙
ば此の直
前、豊後の二風土
を撰進し 此等の五部を俗に

十六日盛大な起
場内に併
室、三教室、三宿
習所は近
になり設
々四月早
定したの
から盛大
ことにな
費二萬圓
内に新築
千五百平
滿蒙と國防博覽會
水工事に關し今ニ
十時から水道委員

良漁（十一回二
五俵（十一
達三五俵（
鹿島五四俵（
二人目である。
優良漁船表彰式
廿八一
去二十一日施

河内郡福澤村生れ河
陸奥の風土記も
修したであらう
ら残つてゐない
る之が初見は寛
共れを次に掲用

議を以て金三百
の功勞に酬ゆる
贈つた
は二十五日午
時總會を開き豫
修第二期工事計
同村住吉坑
鐵材等を窃
罪を白
内郷村大字一
曲山金平四
して平署にて
ゐたが去月

眉弓 妓に！

火宣傳

ハ日一齋に 例の防火宣傳デ 防組外各町村組で 一齋に各戸の竈檢 火思想宣傳のビラ 校に於ける防火講

處策を協議中
泥送檢餘白白高坂居住食肉行商
は窃盜被疑者と
檢舉取調を受けて
二十日午前一時頃
外から銅線その他の
取資却した事を自

號七廿百四千一第一 (可認物便郵種三第)

に就て栽培品種の選定を抬
り出して見やう。
▼梨、以前は長十郎のやう
な赤肌のものが一般に栽培
されてゐたのであるが最近
では太白とか廿世紀とか呼
ばれる青肌俗に云ふ青梨)
でしかも口さばりがよく且
つ風味の良いものが歓迎さ
れて來たのであるが嗜好は
更に向後支那種の慈梨(ツ
ーリー)鴨梨(ヤーリー)そ
の他洋種のものに移りつゝ
あるので梨の將來の王座は
或は洋種にしめられるので
はないであらうか、
▼柿、石城の名産としては
謂所石城身不知で榎ぬきと
稱するものの及び乾柿の類で
あるが甘柿では肉質が細や

果樹の將來

かで感じのよい偏圓形のものが好まれしかも核が少なくて長持ちするものが嗜好に合つて來た『富有』とか『次郎』の人気は茲にあるであらう、恐怖も同様で『半桜無』『横野』などが人氣を博し恐怖では『祇園坊』『愛宕の呼び聲』が高い、

牛も豚も優良品の自慢

肉の御 三三三屋 平町
用金は 田町

サイゴー印學生帽

入學用品店內陳列

入學ト進級ノ才準備ニ 念入ニ吟味セル實用品揃イ

ツルヤ

平四·總一四〇

入院

明雲堂眼科醫院
平驛前 電六六九七

特約販賣店 山野邊藥局

カクレーソビロイン

(三十三日分 定價一圓四角)

平南町産婆看護婦學校へ

▲申込み成るべく早く
▲新学期を開始は四月八日より

婦學核譜

天然加里肥は酸性でないから
如何に施用しても土壤を惡化する時は絶対にあ
ません

然加里肥は酸性でないか
に施用しても土壤を悪化する點は絶対に

內科 小兒科

三十回生徒募集

安價で効果的な
大學生

耳鼻咽喉科専門